

3. 看護業務「療養上の世話」の看護補助者・他職種への委譲状況の調査

○山崎 久美子（福島県立医科大学附属病院）

丸山 育子（福島県立医科大学看護学部）

【研究目的】

本研究の目的は、福島県における看護業務の看護補助者および他職種への委譲状況を明らかにすることである。

【研究の必要性】

近年の医療の高度化・専門化に伴い看護師の業務範囲が拡大され、より専門的な知識や技術が求められてきている。ことさら昨今の【診療の補助】の役割の増加に伴い、看護師の業務負担を軽減するために、【療養上の世話】を看護補助者などへ委譲する傾向にある。しかし【療養上の世話】は看護師が自信を持ってできる援助であり、現場では患者と看護師との関係構築に欠かせない。看護師は【療養上の世話】を通して、「看護者は患者と関わる時間が一番長く、患者の生活を把握し、患者の視点に立って援助を提供できる立場」であるという看護師のアイデンティティが確立されていると考える。したがって、看護業務の効率性のみを迫及して看護業務のうちの【療養上の世話】の多くを看護補助者や他職種に委譲してゆくことは、看護師のアイデンティティクライシスに繋がりにかねないと考える。

【療養上の世話】の業務委譲の状況について他県で行った調査はあるが、福島県における調査はない。この調査結果は、看護師が看護師アイデンティティクライシスにならない看護業務のあり方を検討するための基礎資料となると考える。

【研究計画】

- 1) 対象者：福島県内の病院の一般病床・療養病床の病棟で勤務する看護師
- 2) 選定方法：福島県の病院一覧から、精神／感染病床が多くを占める病院は除外した。病床数による3区分および会津、中通り、浜通りの所在による3区分を考慮して病院を選定した。それらの区分より選定した病院の看護責任者へ郵送にて研究依頼をし、研究協力の承諾が得られた施設に対象者数分の研究説明文書・アンケート用紙を郵送した。各病院の看護責任者を通して各看護師に配布され、個別投函による回収とした。投函したことで本研究への同意が得られたとした。
- 3) 看護業務の定義：厚生労働省「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書の看護技術の到達目標や、日本看護協会「看護補助者活用推進のための看護管理者研修テキスト」の看護補助者の具体的な業務例を元に研究者が抽出した。

【実施内容・結果】

1. 実施内容

福島県内の病院 27 施設の看護責任者に研究依頼文書を送付し、研究の同意が得られた 14 施設に計 457 通のアンケートを送付した。看護師からの投函によるアンケート回収を行い、253 通の回答を得て（回収率 55.4%）、そのうち看護助手などの対象外となる 4 名を除き、249 通の有効回答が得られた（有効回答率 98.4%）。

2. 結果

1) 対象の特徴

対象者の属性を表 1 に示す。40 歳以上が 6 割以上で、最終学歴は看護専門学校が 8 割近く、経験年数は 20 年前後が多かった。500 床未満の病院で働く看護師が大半を占めており、病棟の看護配置は 7:1 が 6 割近くだった。殆どの病棟で看護補助者が配置されていた。

看護職の考えを 5 段階で調査した結果を表 2 に示す。8 割以上の看護師が看護業務量が多いと感じていた。看護師として専門的知識を保有している看護師は 6 割以上で、半数以上の看護師がキャリアアップをしたいと考えていた。看護判断に自信を持っているかについてはどちらともいえないとの回答が 4 割以上だった。やりがいを感じている看護師は半数以上を占めた。6 割以上の看護師は、看護職が専門職として認められていると感じていた。

2) 現在の看護業務の委譲状況と本来看護師が行いたい業務および一致率

現在の看護業務の委譲状況と、本来看護師が行いたい業務と看護補助者や他職種に委譲したい業務を調査した。また、現在の看護業務の委譲状況と、看護師が本来行いたい業務と委譲したい業務の一致率を算出した。一致率(%) = (看護師個々が現状と本来の回答が同じであった数) ÷ (現状と本来の両方に回答した看護師の総数) × 100 で算出した。これらの結果を表 3 に示す。

【療養上の世話】に関する業務のうち、食事については配膳・下膳や食事介助は現在殆ど看護補助者と共に行っており、本来はより看護補助者に委譲したい看護師が多かった。経鼻胃管や胃瘻を介した栄養剤の注入は殆ど看護師のみで行っていたが、本来は胃瘻を中心に看護補助者に委譲したいと考える看護師がいた。排泄に関しては尿器・便器介助は半数以上が看護師のみで行っていたが、本来は看護補助者とともに行いたい、または委譲したい看護師が 9 割近く、一致率も 39.8%と低かった。おむつ交換は看護補助者と共に行っている状況が多く、本来は看護補助者に委譲したい看護師が増えていた。膀胱内留置カテーテルに溜まった尿の後始末は現在 7 割以上が看護師のみで行っている一方、本来は看護補助者と共に行いたい、委譲したいと考える看護師が 7 割以上で、一致率は 40.6%だった。移動の援助は現在看護補助者と共に行っていることが多く、本来はより看護補助者に委譲したい看護師数が増えていた。ベッドメイキングは 7 割以上が看護補助者と共に行っており、本来は看護補助者に委譲したい看護師が約 7 割を占めた。清潔ケアは殆ど看護補助者と共に行ってい

たが、足浴は半数以上が看護師のみで行っていた。しかし、本来は足浴を看護補助者と共に行いたい看護師が 115 名、看護補助者に委譲したいと考える看護師が 107 名と同程度で、一致率が一番低かった。洗面・髭剃り・結髪等の整容介助の一致率は 2 番目に低かった。

一方、【診療の補助】に関する業務は、現在は殆ど看護師のみが行っており、一致率も 7 割以上の項目が殆どだった。酸素ボンベの交換は【診療の補助】の中で一致率が一番低く、本来は看護補助者に委譲したい看護師が大幅に増えていた。ネブライザーや内服介助、外用薬、体温測定、血圧測定は他の【診療の補助】業務に比べ、本来は看護補助者と共に行いたい看護師が多かった。創傷処置や経口薬の準備、点滴のミキシング、注射、採血は他の項目に比べ、本来は他職種と共に行いたい、他職種に委譲したいと考える看護師が多かった。

本来の看護業務のあり方について「看護師だからこそ行いたい」という回答が 1 つもない看護師が 2 名、1 つ・2 つ・4 つが各 3 名、3 つが 4 名で全体の 6.0%であった。

表1 対象者の属性		N=249	
		人数	(%)
年齢	20歳代	30	12.0
	30歳代	61	24.5
	40歳代	102	41.0
	50歳以上	53	21.3
	欠損	3	1.2
最終学歴	看護高等学校専攻科	23	9.2
	看護専門学校	192	77.1
	看護短大	8	3.2
	看護系大学	12	4.8
	その他	10	4.0
	欠損	4	1.6
看護経験年数	1～5年	22	8.8
	6～10年	36	14.4
	11～15年	32	12.8
	16～20年	50	20.0
	21～25年	42	16.8
	26～30年	40	16.0
	31年～40年	21	8.4
	欠損	6	2.4
役割	病棟師長	22	8.8
	主任・副主任看護師	68	27.3
	チームメンバー	150	60.2
	その他	4	1.6
	欠損	5	2.0
専門/認定看護師資格の有無	有	12	4.8
	無	233	93.6
	欠損	4	1.6
病床数	200床未満	82	32.9
	200～499床	136	54.6
	500床以上	24	9.6
	欠損	7	2.8
看護配置	7:1	147	59.0
	10:1	67	26.9
	13:1	8	3.2
	15:1	7	2.8
	20:1	7	2.8
	25:1	5	2.0
	その他	2	0.8
	欠損	6	2.4

表2 看護職の考え		N=249	
		人数	(%)
業務量は多いか	非常にそう思う	118	47.4
	ややそう思う	88	35.3
	どちらともいえない	32	12.9
	あまり思わない	6	2.4
	全く思わない	1	0.4
	欠損	4	1.6
専門的な知識を保有しているか	非常にそう思う	17	6.8
	ややそう思う	141	56.6
	どちらともいえない	64	25.7
	あまり思わない	19	7.6
	全く思わない	3	1.2
	欠損	5	2.0
キャリアアップしたいか	非常にそう思う	44	17.7
	ややそう思う	105	42.2
	どちらともいえない	67	26.9
	あまり思わない	23	9.2
	全く思わない	4	1.6
	欠損	6	2.4
看護判断に自信を持っているか	非常にそう思う	8	3.2
	ややそう思う	92	36.9
	どちらともいえない	112	45.0
	あまり思わない	27	10.8
	全く思わない	4	1.6
	欠損	6	2.4
看護にやりがいを感じているか	非常にそう思う	18	7.2
	ややそう思う	123	49.4
	どちらともいえない	73	29.3
	あまり思わない	24	9.6
	全く思わない	5	2.0
	欠損	6	2.4
看護職は認められていると感じるか	非常にそう思う	37	14.9
	ややそう思う	126	50.6
	どちらともいえない	55	22.1
	あまり思わない	18	7.2
	全く思わない	8	3.2
	欠損	5	2.0

表3 現在の看護業務の委譲状況と看護師が本来行いたい業務および一致率

	現在の委譲状況										本来の委譲					一致率															
	看護師のみ					看護補助者 と共に					看護師だけ						看護補助者 と共に					他職種と共 に					他職種に委 譲				
	標本数	看護師のみ	看護補助者 と共に	看護補助者 と共に	他職種と共 に	他職種に委 譲	標本数	看護師だけ	看護補助者 と共に	看護補助者 と共に	他職種と共 に	他職種に委 譲	標本数	看護師だけ	看護補助者 と共に		看護補助者 と共に	他職種と共 に	他職種に委 譲	標本数	看護師だけ	看護補助者 と共に	看護補助者 と共に	他職種と共 に	他職種に委 譲						
【療養上の世話】	<食事>																														
	1. 配膳・下膳	249	7	237	1	0	0	249	2	139	101	4	3	249	55.0																
	2. 食事を口に運ぶような食事介助	247	65	176	1	5	0	246	33	180	27	5	1	244	67.1																
	3. 経鼻胃管からの栄養剤の注入	246	246	0	0	0	0	247	216	24	4	3	0	245	85.9																
	4. 胃瘻からの栄養剤の注入	245	237	8	0	0	0	246	190	39	15	2	0	243	76.3																
	<排泄>	248	130	114	2	2	0	248	26	157	63	2	0	247	39.8																
	5. 尿器・便器を使用した排泄介助	249	75	169	1	4	0	248	8	172	65	3	0	248	49.4																
	6. おむつ交換	249	185	57	6	1	0	248	61	109	75	2	1	248	40.6																
	7. 膀胱内留置カテーテルに溜まった尿の後始末	247	65	152	6	23	1	244	22	147	57	15	3	242	54.6																
	<移動>	246	41	180	5	19	1	246	12	174	50	10	0	243	59.8																
	8. 歩行付き添い	248	40	198	5	5	0	247	14	175	50	7	1	246	66.3																
	9. ベッドから車椅子/車椅子からベッドへの移動(移乗)	249	3	192	52	2	0	248	2	66	172	3	5	248	42.6																
	<清潔>	249	81	166	0	2	0	248	18	179	49	2	0	248	53.8																
	10. 検査等への車椅子/ストレッチャーによる移動(移送)	249	84	147	16	2	0	248	19	146	81	2	0	248	45.4																
	11. ベッドメーカーキング	246	112	130	1	3	0	247	42	161	42	4	2	244	54.2																
	12. 清拭	248	48	172	26	2	0	248	16	163	66	3	0	247	60.2																
	13. 洗髪	247	127	102	16	2	0	248	23	115	107	3	0	246	32.1																
	14. 口腔ケア	247	89	156	0	2	0	248	30	166	49	3	0	246	54.2																
	15. 見守りや一部介助が必要な患者の入浴介助・	247	59	185	0	3	0	246	12	166	63	4	1	244	52.6																
16. 足浴	248	85	145	13	4	1	247	13	111	118	4	1	246	34.5																	
17. 陰部洗浄																															
18. 寝衣交換																															
19. 洗面・髭剃り・結髪等の整容介助																															
【診療の補助】	<呼吸>	249	113	55	71	2	8	246	72	40	105	5	24	246	59.8																
	20. 酸素ボンベの交換	248	244	2	1	1	0	247	228	9	2	8	0	246	90.8																
	21. 気管内吸引	248	241	3	1	3	0	249	213	26	2	8	0	248	87.1																
	22. 口腔内・鼻腔内吸引	249	240	9	0	0	0	247	182	49	13	3	0	247	73.1																
	23. ネブライザーの実施	246	201	4	1	40	0	246	176	10	1	53	6	243	83.1																
	<処置・与薬>	249	231	4	0	14	0	248	187	13	3	13	32	248	77.5																
	24. 創傷処置	249	187	62	0	0	0	247	173	61	8	3	2	247	72.7																
	25. 経口薬の準備	249	199	49	0	1	0	249	143	80	19	6	1	249	65.5																
	26. 経口薬の内服介助	248	239	0	0	9	0	248	189	2	1	15	41	247	75.9																
	27. 外用薬の貼付・塗布	249	249	0	0	0	0	248	234	2	1	8	3	248	94.0																
	28. 点滴のミキシング	248	243	0	0	5	0	248	212	2	0	27	7	247	85.5																
	29. 点滴ボトルの交換	249	238	9	0	2	0	247	186	43	10	6	2	248	77.1																
	30. 注射	249	239	7	0	3	0	248	190	40	9	8	1	248	78.3																
	<検査・測定>	249	244	0	0	5	0	248	200	1	1	32	14	248	79.9																
	31. 体温計による体温測定																														
32. 自動血圧計による血圧測定																															
33. 静脈血採血																															

【考察と今後の課題】

看護業務のうち、【療養上の世話】に関しては食事や排泄介助の一部、足浴を除き看護補助者と共に行っており、本来はより看護補助者と共に行いたい、または委譲したい看護師が多かった。本来看護師だからこそ行いたいとの回答が増えた項目はなく、【療養上の世話】業務を少しでも看護補助者に委譲したいと考えていた。ベッドメイキングと配膳・下膳は他の項目に比べ、看護補助者に委譲したい傾向にあった。X県での調査では、療養環境の整備に関するもの（ベッドメイキング等）は施設規模に関わらず相当程度看護補助者が担い、日常生活の援助に関するもの（清拭、入浴介助等）は、施設規模により看護補助者の実施率に違いが見られ、大規模病院では看護師が、小規模病院では看護補助者が行っており、今回の結果も、療養環境の整備の方がより看護補助者に委譲する傾向にあることと合致していた。

一方、【診療の補助】に関しては、内服薬や外用薬、酸素ボンベの交換を除いて、現在は看護師のみで行っており、本来も看護師だからこそ行いたいとの回答が多かった。これらの要因として、今回の調査では500床未満の病院の看護師が多く、看護師は知識や判断に自信があり、やりがいは感じているが、看護業務量は多いと考える看護師が多かった。そのため資格のない看護補助者には担えない【診療の補助】は看護師で行い、食事や清潔など【療養上の世話】業務を可能な範囲で看護補助者に委譲し、看護師の業務負担を減らしたいと考える傾向があったのではないかと考えられる。【診療の補助】業務のうち、創傷処置や内服薬の準備、点滴や注射に関する項目や採血などは、他職種に委譲したいとの回答も一部みられた。小規模病院や看護師が少ない看護配置の方が他職種も少ないため、看護師が【診療の補助】業務を担う部分が多く、【療養上の世話】に時間が裂けず、看護補助者が【療養上の世話】業務を担わざるを得ない現状があると考えられる。今後、施設規模や看護配置による看護業務の委譲の違いや、看護職に対する考えと看護業務の委譲に対する考えに差があるのかを確認し、【療養上の世話】を看護補助者に委譲する要因について明らかにする必要がある。

今回の調査では、看護業務のうち【療養上の世話】と【診療の補助】業務についてのみ質問したが、看護師の業務はこの他にも記録や入院患者へのオリエンテーション、生活指導など多岐にわたる。看護師が担う様々な業務が【療養上の世話】業務にかかる時間を減らしている可能性があり、今後その要因について検討していく必要があると考えられる。

【経費使途明細】

消耗品費（文具コピー用紙・封筒他）	20, 623 円
印刷費（アンケート用紙・返信用封筒）	67, 608 円
通信費（アンケート郵送代・切手）	41, 412 円
データ入力費（業者に委託）	51, 766 円
人件費（アンケートの仕分け、郵送準備など）	16, 000 円
合計	197, 409 円
大同生命厚生事業団助成金	180, 000 円